

地域の実情と課題

当市は富士山の湧き水を活用した企業が多く、また北部の広大な朝霧高原においては酪農及びキャンプ等といったアウトドア系の産業が発達しているのが特色である。市内で働く労働者を増加させるためには、子育て中の女性の社会参画が必要不可欠である。令和2年度国勢調査における年齢階級別労働力率についても、30～34歳の女性の数値が国が79.6%であるのに対し、当市は78.0%となっており、国の平均に達していないのが現状である。また、以前の3世代同居からの核家族化への家族形態の変容、家族の転勤等に伴う転入により、ワンオペ育児が増加し、子育て中の母親の孤独が高まり、悩みや不安から社会復帰を考えるゆとりがない状況にある。これに対し、当市では総合計画で「女性が輝く、さくや姫プロジェクト」と題し、女性が持つ力を最大限発揮できる環境を作り、女性の社会復帰を後押しするような事業を行ってきた。

事業の特徴

子育て中の母親が市公認の記者になり、取材を通して社会と関わり、記事を書くことでスキルアップを行う。

事業の効果

新規の母親ライターを5名育成し、総勢60名のライターが活動する事業となった。今年度における新規に86件の記事を掲載し、母親たちの目線を通した情報の発信を積極的に行うことができた。

3団体交流として長泉市や富士市のママラッチと共同で取材を行う等交流を行い、活動が深まってきている。また、活動を通して母親達の社会との繋がりが創出され、社会復帰の一助となっていることも考えられるため、女性の社会進出に一定の成果が出たと思われる。

目的・目標

子育て中の母親たちの経験不足からの不安、社会との関わりが希薄になりがちであるという点の解消のため、子育て中の母親たちの「書く」能力に重点を置いたスキルアップを行い、地域とのかかわりを持つことで社会参加への意欲を高めること。

連携団体

- ・NPO法人母力向上委員会
市内NPO法人。事業委託先。
- ・女性応援会議
市が事務局を務める女性活躍について幅広い意見を募るための会議

今後の課題

取材活動を通して孤独になりがちな母親を社会とつなぎ、社会参画への意識を高め、実際に社会に復帰していく母親も多くなっているが、その後連絡が取れなくなるライターも出てきているため、その後を把握できるような管理体制を検討する必要があると考える。

